

「横浜消防出初式2025」にて広報活動



1月12日(日)、「横浜消防出初式2025」集い 学び 楽しめる 安心安全フェスティバル」が横浜市中区の「赤レンガ倉庫」周辺で行われ、約9万人(主催者発表)が集まりました。このイベントは、横浜市消防局が横浜市民に安心・安全を身近に実感してほしいという目的で主催したもので、自衛隊神奈川地方協力本部(本部長 大谷三穂1等海佐)も会場にブースを出展し、自衛隊の災害派遣の任務について説明しました。

自衛隊ブースでは、訪れた来場者が「令和6年能登半島地震」での派遣活動の写真パネルに見入る姿や、「背のう」や「携帯用スコップ」などの個人装備品の使い方について職員に質問する姿が見られました。また、自衛官が災害派遣の際などに食べる「非常用糧食」の展示コーナーも人気を集めるなど、災害派遣活動に対する関心の高さがうかがえました。

このほか、人員や物資の輸送など様々な状況で運用される高機動車や偵察用オートバイの展示を行ったところ、車両に乗り込み写真撮影をする家族連れで行列ができるほどの賑わいを見せていました。

神奈川地方協力本部は、「今後もあらゆる機会を通じて、自衛隊を身近に感じていただけるよう精力的に活動してまいります」としています。

令和7年度入隊予定者及び保護者に対する説明会を実施



自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所(所長 兒玉憲幸1等陸尉)は、令和7年度入隊予定者7名及びその保護者12名に対し、入隊にあたっての不安や疑問点を解消するための説明を行いました。

1月25日(土)、平塚地域事務所で開催された説明会では、広報官が自衛隊の役割や職種職域、入隊後の生活、訓練内容、待遇、福利厚生、安全対策、そして入隊までの準備事項について詳しく説明しました。その後、座談会を行い、現役隊員の体験談を通じて自衛官の日常やキャリア形成の実例などを具体的に紹介しました。

参加した入隊予定者は、「多くの不安があったが今回の説明で解消できた。入隊まで1ヶ月以上あるので心と体、特に体力面を強化し自信をもって入隊できるよう準備したい」と話してくれました。また、保護者の方からは、「自衛隊の活動や支援体制について理解が深まった」との声をいただきました。

平塚地域事務所では「入隊予定者及びそのご家族が安心して新たなスタートを迎えられるよう、また、希望と夢、そして目標をもって入隊できるよう、今後も説明会を実施していく」としています。